

2018年度 Evidence based Design 小委員会公開研究会

「ラーニング・コモنزのあり方とその Evidence-based Design を考える」

デザインプロポーザルはそれが最良のデザインであることを説明するためのエビデンス（根拠）が求められる。個人的な経験や直観に従うのではなく、流行を追うのでもなく、科学的な根拠にもとづいて最良なデザインを行うことが求められている。エビデンスには、建築計画、環境計画、構造計画のそれぞれの分野における理論もあれば、利用者の行動やニーズなどの調査にもとづくエビデンス、過去の事例の統計的な分析によるエビデンスもあるだろう。さらには、デザインの目標にかかわる理想や信念、デザインを統合する体系的思考が必要であり、個々のエビデンスの蓄積だけではなく、総合としてのデザイン行為の有り様を議論する必要がある。今回の公開研究会では、近年、急速に整備が進んでいるラーニングコモنزに焦点を当て、知識創造の場としての新しい空間がどのようにデザインされ、そして実践されているか理解を深めたい。最新の事例として近畿大学のアカデミックシアターおよび同志社大学のラーニング・コモنزでの経験から、その成立過程における検討内容や使われ方を報告をいただき、知の創造の場としてのラーニング・コモنزのデザインについて議論する。

研究会ではまず、加藤彰一氏からラーニングコモنز成立の経緯について概説し、続いてパネリストとして、近畿大学の寺本大修氏、NTT ファシリティーズの畠山文聡氏から近畿大学アカデミックシアターの実現と現状について、同志社大学の山田和人氏、パワープレイスの濱村道治氏から PBL の場のあり方からラーニング・コモنزについて、それぞれ話題提供いただく。さらにディスカッションを通して、ラーニング・コモنزのあり方とその EBD について考える。

主 催：建築計画委員会 設計計画運営委員会 Evidence-Based Design 小委員会

日 時：2018年12月7日（金）15時～18時半（予定）

会 場：近畿大学東大阪キャンパス 33号館 3階 304

※アカデミックシアターは、見学自由のため公開研究会前にお立ち寄りください。

13:30 からアカデミックシアター5号館1階メインエントランスで簡単な案内説明を行います。

趣旨説明 那須聖（東京工業大学） 15:00～（10分）

主題解説

1. 「ラーニングコモنزの成立経緯」 15:10～（20分）

加藤彰一（三重大学）（予定）

2. 「近畿大学アカデミックシアターについて」 15:30～16:30（60分）（同）

寺本大修（近畿大学）

畠山文聡（NTT ファシリティーズ）

休憩 10分

3. 「意欲的な学びを誘発する創造的な環境としてのラーニング・コモنز -ラーニング・コモنزとワーキング・コモنز-」 16:40～（60分）（同）

山田和人（同志社大学 文学部 教授、前 PBL 推進支援センター長）

濱村道治（パワープレイス株式会社）

ディスカッション 17:40～（30分）

まとめ 岸本達也（慶應義塾大学）

司会・進行 山田崇史（近畿大学）

参加費：会員 2,000 円、会員外 3,000 円、学生 1,000 円（資料代含む／当日会場払い）

定 員：60 名（申込み先着順）

申込方法：催し物名称、氏名・勤務先・所属・同居所・同電話番号・Eメールアドレス、参加区分（会員、会員外、学生）を明記し、**11月22日（木）**までに下記あてにお申し込みください。

申込・問合せ：山田崇史（近畿大学）E-mail: takashi.yamada.research@gmail.com

※来場の際は、公共交通機関をご利用ください。